

会場名	サブリーダー	
	役職	氏名
大阪国際会議場10階1008号室	次年度米山奨学委員会 委員長	廣瀬彰久
リーダー 役職・氏名		
パストガバナー 松本進也		
議事録作成者	多田大介 来島 裕 (大阪西南 RC)	

開会：(15時05分) 司会 生駒伸夫 次年度米山奨学副委員長

発表者：DVD放映「米山梅吉の生涯」

【記録内容】

- ・慶応4年、江戸で生まれる。
- ・明治5年、父と死別し、母うたの実家を頼り、家族で静岡県三島に移り住む。
- ・映雪社に入学する。成績は抜群だった。
- ・12歳のときに米山家の養子となる。
- ・明治14年に沼津中学校に入学する。
- ・米山家の跡継ぎとして大地主になれる身分を捨て、新聞記者になる夢を求めて上京する。
- ・東京英和学校（青山学院の前身）に入学
- ・昼は役所で働き、夜は英語を学ぶ。
- ・明治20年に米山家に入籍する。
- ・20歳のときに渡米する。レストランで働きながら大学入学の準備を始める。
- ・ウェスレアン大学、シラキュース大学で学ぶ。8年間アメリカで生活した。
- ・明治29年に「提督彼理」を出版したが、決まった仕事はなく生活は苦しかった。
- ・米山はると結婚
- ・新聞記者になるのをあきらめ、明治30年に三井銀行に入社し、その後、銀行員として活躍
- ・47歳のときに「銀行行餘録」の出版し、その中の「新隠居論」が反響を呼ぶ。
- ・大正6年にダラスを訪れ、初めてロータリークラブの存在を知り、社会奉仕の精神に共感する。
- ・社会奉仕の必要性を痛感し、日本で初めてのロータリークラブを設立する。
- ・67歳のときに余生のすべてを社会奉仕に捧げる決意し、医療対策・教育問題に注力する。
- ・はるとともに緑岡小学校の設立に関与し、梅吉が初代校長となる。
- ・昭和21年4月28日に死去 享年78歳。1年後にポールハリスが死去
梅吉とポールの奉仕と友愛の精神はロータリアンに受け継がれている。

発表者：パストガバナー 松本進也

(15時35分)

【記録内容】

- ・米山奨学事業の本来の意味

2度と戦争の惨禍を繰り返さないよう、平和の理念を強く有し、国家の中核で働く優秀な人材を各国で育成するため

- ・米山奨学事業の意義

「学業支援」「人材育成」の2本柱で成り立っている。

- ・学業支援

単なる費用的な援助にとどまらず、精神面、体力面の安定や研究時間の確保を保障するもの

- ・人材育成

将来における民間の国際親善大使として母国と日本の国際交流の象徴となるように世話クラブ・カウンセラーが指導する。

- ・カウンセラーは米山奨学事業成功のカギ カウンセラーは国際奉仕の最前線。委員長とカウンセラーが2人3脚となり奨学生がクラブになじむように働きかける。

- ・学友会組織について

関西学友会～1986年に設立された日本でも有数の活発な組織

ロータリー米山記念奨学会学友会～世界で42団体 日本国内33団体・海外9団体

- ・当地区に新設された「地区青少年のためのハラスメント相談窓口」について

- ・米山奨学事業の成り立ち

1952年に米山奨学基金が設立される。

東京RCから始まった事業は日本国内全クラブの合同事業として発展

累積支給者数2万人超 国籍別では127の国と地域

当時の合言葉「1か月に1箱、タバコ代を節約して奨学金に」

- ・米山奨学生の義務とペナルティ（奨学金の打ち切り）

- ・奨学金の種類と金額

- ・2019-20年度RI会長テーマと米山奨学事業との関係

- ・最近の米山ニュース

- ・米山奨学生に求められる資質 学業・異文化理解・コミュニケーション能力

- ・当事業について最も重要なこと

「米山奨学生はクラブから手を離れてからが一番大事」

発表者：廣瀬彰久 次年度米山奨学委員長

(15時50分)

【記録内容】

- ・2019年度事業計画について

①大学との意見交換会

②クラブ米山委員長およびカウンセラー研修会

③奨学生レクリエーション

④2020年度奨学生採用選考面接

⑤ 2019 学年度奨学生修了式・歓送会

⑥ 2020 年度新奨学生オリエンテーション

⑦ 公益財団法人 米山梅吉記念館訪問

・米山奨学事業の特徴

救済支援型奨学金ではなく知的貢献型奨学金である。

・2019 年度は 51 名を 16 の国と地域から採用

国籍のバランスに配慮して採用しているが、中国人の絶対数は多い。ただ、優秀者も多い。

・米山記念奨学事業の成果

日本と日本人を理解してもらい「学問を究めた親日家に育てる」

・「米山学友会 IN SEOL」「米山学友」のビデオ放映

巣立った学友とカウンセラーの交流が続いている。

・米山学友会のネットワーク

・学友会の活動

・2017-18 年度の当地区の寄付実績

寄付金総額は 1 億 4 千 3 百 8 1 万円で前年度から約 6 千 0 百 0 万円の増額

普通寄付金、特別寄付金を合わせた個人平均寄付額に関しては当地区は全国 2 位

特別寄付金の寄付者割合は当地区は 73.7%

・寄付金の税制優遇

・当地区の次年度の一人あたりの寄付金の目標額は 3 万円

地区で奨学生を何人採用できるかはほぼ寄付額の全国比で決まるので、一人でも多くの奨学生を採用できるよう次年度の目標に向けてご協力をお願いします。

閉会（17時00分）

備考・メモ

4月26日（金）までにガバナー事務所宛てにお送りください。

返信先：ガバナー事務所 E-mail：funahashi@ri2660.gr.jp